

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
授業での行動観察や実技テスト、定期考査などから全学年とも全体的に興味・関心を持ち、意欲的に取り組んでいる様子が見られる。	自分の思いを表現することに苦手意識が強く、観点2「音楽表現への創意工夫」と観点3「表現の技能」との関連性を具体化し、深めていく必要がある。また観点4「鑑賞の能力」については言語活動を充実させることで改善されようとする。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	歌唱については、中学生になり声を出すことに恥ずかしさが出る。読譜についても個人差があるが、小学校での学習と関連付け、復習をしながら一から音楽の基礎を身につけていく。	周りの友達との距離を近づけて歌うことで、声を出しやすくする。腹式呼吸を身につけ、良い発声法の身体作りをしていく。音楽の基礎的な知識を身につけるため繰り返し学習を行っていく。
2年生	変声期を迎える生徒が多くなる分、音程が不安定になり、地声や声を出すことに抵抗することもある。合唱経験が増えるため、表現しようとする意識が出て、クラスの個性がより出てくる。	音程が不安定な時は範唱を何度も聴かせ、間違えても良いことを前頭にしっかり声を出す意識をさせる。また、より表現力を高めるためにグループ活動を通して自分の考えや思いを伝えやすくする。
3年生	頭声発声でのびのある声に変化する。歌唱・器楽においてグループ活動をするが、自分たちで創意工夫しながら表現することが苦手である。	色々な表現方法があることを伝え、ひとつひとつを全体で工夫し、その過程も大切にしていく。また少人数でのアンサンブル活動を通して自分の考え、練習法を仲間と考え自分たちで音楽を作りあげていく。

●学校全体で取り組む内容

観点4「鑑賞の能力」では言語活動の充実のため、作曲者の意図・曲が作られた背景等を先に説明し、感じたことや楽曲における楽器・フレーズ等の働きについて自分の言葉で表現できるようにしていく。音楽の基礎的な知識は全学年に必要な事項である。小テストや日々の授業で繰り返し身につけていくことで表現活動にも活用していく。歌唱することに喜びを感じる生徒を育成するために、歌うことへの抵抗をなくし、生徒一人一人が具体的にどのように工夫していくか考えられるように指導していく。その内容をクラス全体で共有し、ひとつの音楽を作りあげていく。